山梨県 高Ｐ連通信

発行所／山梨県高等学校ＰＴＡ連合会
発行責任者／金井一憲　甲府市丸の内３－33－７教育会館内
TEL（055）226-7290　FAX（055）226-7133

ごあいさつ

県高Ｐ連会長　金井一憲

皆様におかれましては、日頃より山梨県高等学校ＰＴＡ連合会の活動に、ご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスが５類感染症に移行し、日常生活が徐々に以前の様子を取り戻してきました。とはいえ、保護者の皆様は、今後のＰＴＡ活動のあり方について、少なからず悩みを抱えているのではないでしょうか。

未曾有のパンデミックを経験したことにより、私たちの中に、ＰＴＡの存在意義に疑問が生まれるとともに、ＰＴＡ自体にも必要性が問われるようになりました。しかし一方では人との交流が制限されるなか、ＰＴＡを通じ学校の様子を知りたい、保護者同士の交流が欲しいという声もありました。ＰＴＡ活動に対する期待が存在することを改めて確認いたしました。

私たちの目的は、保護者同士、保護者と教職員が良好な関係を築き、円滑な学校運営を行うことであり、保護者(Parent)と教職員(Teacher)により構成される任意組織です。近年、学校に関する話題が山積しています。教職員の働き方改革を始め、教員志願者の減少や、不登校・ヤングケアラーの問題など暗いものが目立ちます。いま、保護者として学校に関わっていく重要性は高まっていると感じております。円滑な学校運営を行うことにより、教職員がベストなパフォーマンスを発揮できるのであれば、その恩恵を受けるのは何よりも子ども達です。子ども達が充実した高校生活を送ることができるよう、保護者として何ができるかを考えていきたいと思います。

コロナ禍の影響により、一人ひとりの嗜好が多様化し、健康的な生活を志向する人が増えてきており、価値観の多様化が進んでいます。こうした一人ひとりのニーズに合った情報が提供されるグローバルな環境は、学校教育を複雑化させてしまったような気がします。便利な社会になった反面、活動内容もそれに応じて変化する必要があります。現代社会に合った合理的な活動が求められてきました。ＰＴＡ活動の目的や内容を再検討し、必要なもの、不要なものを見極め、参加者の負担を軽減し、より実りのある活動を実現するために、工夫や改善を重ねていきましょう。

加速する少子化は簡単には止めることは出来ませんが、皆様と共に一つひとつ、次世代に向けた発信を続けていきたいと思います。

ＰＴＡ活動に参加した方の感想を聞くと、「学校の様子を知ることができた」、「他の保護者と交流を深めることができた」、「子どもとのコミュニケーションが円滑になった」と、概ね好意的なものが多いです。時代遅れの活動内容や、役職を押し付けられるというネガティブな印象も根強いですが、ＰＴＡ活動は、子どもたちの教育環境をよりよいものにするために欠かせない存在です。活動を通じて得られる喜びも多いです。

私たちは、誰にとっても参加しやすいＰＴＡ連合会を築くため、取組んでいきましょう。今後とも皆様のお力添えをお願いします。

令和五年度 高Ｐ連定期総会

令和五年度山梨県高等学校ＰＴＡ連合会総会が、去る五月二十六日、甲府市総合市民会館芸術ホールにおいて、山梨県教育委員会教育長様をはじめとする多くの来賓の皆様のご臨席のもと、県下加盟校から代議員百三十六名の参加を得て、開催されました。

中込光司会長の挨拶の後、ご来賓の降籏友宏教育長、小林智高等学校長協会会長からご祝辞をいただいたくとともに、県教育委員会より中込会長をはじめ、県連の役員七人に感謝状をいただきました。

続いて議事では、令和四年度の事業・決算承認、令和五年度の役員承認に続き、令和五年度の活動方針、令和五年度の事業計画及び予算案が原案どおり決議されました。

しかし、第六号議案『高Ｐ連会費の値上について』は、質問や意見が続出する中で、会場の利用時間が迫ってきたため、結論を出すまでには至りませんでした。

◆令和五年度役員◆

顧　問　宮川　勇徳
常任相談役　中込　光司
　　松土　龍夫
　　河野　道子
　　晦日　哲也
会　長　金井　一憲（甲府南）
副会長　小宮　広督（都留）
　　飯嶋　明子（韮崎工業）
　　山岸　和仁（甲府西）
　　吉澤　茂樹（白根）
　　手塚　俊樹（日川）
　　小林　智（校長会）
常任理事　山涌　純（甲陵）
　　降矢　賢之（甲府一）
　　河野　亮（農林）
　　神宮司洋行（笛吹）
　　外川　真介（富士河口湖）
　　小林　恵子（桃花台）
　　高見澤圭一（校長会）
　　渡邊圭一郎（校長会）
　　佐野　博樹（身延）
監　事　大橋　努（塩山）
（以上敬称略）

令和五年度各種表彰

◆ＰＴＡ活動振興功労者表彰
金丸　正（元関東高Ｐ連会長）

◆優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰
県立盲学校ＰＴＡ

◆全国高Ｐ連会長表彰
中込　光司（前県連会長）
山下みどり（前県連副会長）

◆関東高Ｐ連会長表彰
松土　龍夫（前県連副会長）
河野　道子（前県連副会長）
井上亜紗美（前県連副会長）
晦日　哲也（前県連副会長）
廣瀬　浩次（前校長協会会長）

◆県教育委員会表彰
中込　光司（甲府西）
山下みどり（上野原）
松土　龍夫（甲陵）
河野　道子（甲府南）
井上亜紗美（農林）
晦日　哲也（山梨）
廣瀬　浩次（校長会）
（以上敬称略）

旧役員の皆様

第69回関東高Ｐ連大会の報告

全体会の報告

高Ｐ連副会長　吉澤　茂樹

「未来を描き、切り拓いていこうとする子供たちをはぐくむために」をメインテーマに七月七日、八日の二日間、マロニエプラザをメイン会場に第六十九回関東高Ｐ連栃木大会が開催されました。

会場のマロニエプラザはとても近代的な建物でマスク着用ではありましたがコロナ前を思わせるような多数の参加者で会場は埋まる中、着席し開会を待ちました。

着席後すぐにアトラクションとして宇都宮北高校吹奏楽部による演奏が始まりました。

大きな会場での発表なので多人数の交響楽団をイメージしていたのですが演奏が始まると当初の不安は消え正しく少数精鋭といった個々のレベルがとても高い吹奏楽部だということがわかりました。演奏内容もクラシックからポップス、アニメなど誰もが一度は聞いたことがあるとても素晴らしい演奏でした。

開会式、表彰式、大会宣言文発表とすすみ次期大会開催県の紹介へ移って行きていきました。

その後休憩を挟み記念講演が行われました。講師は女性初の樹木医でもあり栃木県内にあにある「あしかがフラワーパーク」の大藤の移植を成功された塚本こなみさんでした。

木や森の話、樹木を通してみる都市計画の話など過去に携わった人や街の隠れた良さを引き出し生かす方法等とてもためになる、お話を聞きました。私自身も過去に造園に携わる仕事をしていたこともあり公園や一般住宅での庭造り等思い出す場面がいくつもありました。できたらもう少し日本庭園やイングリッシュガーデンの話を聞いてみたかったです。

そんな講演の中でも木との対話、植物を育てる喜びといった話もあってその中で、過去に虐待を受けた子供が植物を育てたり、木の世話をしたりすることで段々と心を開いていき、その経験を生かした仕事に就いて頑張っている話はとても素晴らしいと思いました。

今回の関東大会に参加してコロナが明けて段々と色んなものが動き出し元に戻ってきているなと思いました。全体会での会場の広さとそこに集まった人の数など山梨にいたら感じられない人の数と熱気でした。今はリモートでも会議や打ち合わせはできますが、やっぱり実際に会って、顔と顔を合わせて相手の表情や言葉を良く見て観察し話すことが大事だなと思いました。今年度も残り少ないですが自分のやれることを少しずつでも頑張って山梨県高Ｐ連に参加していきたいと思います。

分科会の報告

高Ｐ連副会長　小宮　広督

七月八日栃木大会二日目は、全体会のあった宇都宮より日光に場所を移して、分科会が行われました。私は、農林高校の発表が行われた第一分科会に参加してきました。

各分科会では二校の発表があり、一校目の発表は農林高校で、『生徒の夢実現に向けたＰＴＡと学校との協力体制』というテーマのもと、多くの活動の紹介がありました。中でも、県下唯一の農業高校という特色を活かした、「収穫感謝祭」など地域住民を招き入れた活動や、多くのＰＴＡ会員も参加して行われている、「先人に学ぶ教育」と称した俳句・川柳の作り方講座が、印象に残りました。また、学校と家庭との連携を密にする事を目的に、「学校改善・点検シート」の実施や、「交通安全ハザードマップ」を作成するなど、教育環境改善に努める活動の紹介もありました。

二校目の神奈川県の伊勢原高校の発表は、『私たちのできる「ＳＤＧｓ」』というテーマのもと、ＰＴＡと生徒会が中心となり、履かなくなった体育館履きと使わない文房具を、コロナ禍の活動制限により余った予算を使い、カンボジアの施設に送るという活動の紹介でした。残念ながら回収から発送まで苦労して頑張ったにもかかわらず、コロナ禍の郵便情勢の混乱により施設まで届けることはできなかったそうですが、皆で挑戦したことや調べ考えたことは、今後に繋がる貴重な経験になったと思います。

各発表後の質問等の時間では、役員選出の仕方など多くの高校が意見を出し合い、盛り上がりをみせました。

分科会に参加して感じたことは、ＰＴＡ活動への取り組み方は、高校により随分違うということでした。コロナ禍で様々な制限を受けてきた三年間を経ても、新しい活動に挑戦している高校もたくさんあることを知りました。

昨今、関東や全国高Ｐ連からの脱退を考えたらどうかという意見も耳にします。しかし、より良い教育環境を整えるためにも、他県に遅れを取らないためにも、やはり全国との交流は必要不可欠です。これからも積極的に参加していくことの必要性を、実感させられた大会でした。

参加者の集合写真

第72回全国高Ｐ連大会開催される！

全体会の報告

高Ｐ連副会長　山岸　和仁

去る八月二十三日（水）～二十五日（金）の日程で、「豊かな杜につむぐ虹の光」～しなやかな強さで生き抜く力～をテーマに、第七十二回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会宮城大会が仙台市で開催され、山梨県高等学校ＰＴＡ連合会からは、三十一名の参加がありました。

全国からは六千人以上が参集し、会場は満席で座れない人も多くいました。

全体会では（一社）全国高等学校ＰＴＡ連合会の山田博章会長から、「以前からこのような活動をしていた」とか、「このような活動をしなければならない」といったような先入観にとらわれずに、「現状はこうだから、このような対応・活動をしていく」といったような、今の時代に合った、またはより先を見据えた持続可能な活動方法を前向きに検討し実践していく時期にきているのではないか。

さらに、私たちは保護者・家庭と教職員がしっかりとベクトルを合わせ、子供達の可能性を最大限に発揮できる社会を形成する為に、手を携えて活動をしていく必要があると話されました。

続いて来賓の文部科学大臣、宮城県知事、仙台市長の式辞があり、その後、昨年度の各種ＰＴＡ活動に関わられた大勢の功労者への表彰がありました。

本県からの表彰者は次の三名です。

・ＰＴＡ活動振興功労者表彰として、令和二年度関東高等学校ＰＴＡ連合会会長を務められた白根高校の元会長金丸正様

・全国大会会長表彰として令和四年度の高Ｐ連会長　中込　光司様

同じく副会長　山下みどり様

記念講演は、地元の仙台育英学園高等学校の硬式野球部監督の須江航氏でした。

一昨日まで夏の高校野球決勝戦まで勝ち進み全国を大いに沸かせ、前日に兵庫県甲子園から帰ってきたばかりの須江監督が登壇されると会場からは大きな拍手で迎えられました。

昨年度、東北勢として初めての優勝旗を手にし、「青春って密なので」という名言を残した監督さんです。

前半部分では、「自身の高校野球は一日で終わった」、「失敗を許容し、挑戦できる環境づくりが大切」、「うまくいかないときは、人生を一度変える」など、ご自分の挫折経験について話されました。

その後で、自身の経験や、選手から学生コーチとしての経験も踏まえて、「情熱と素直さと粘り強さが大切」、「否定的ではなく肯定的な思考をする」、「叱る・怒るに依存しない」、「失敗から学ぶことが大切であり、成功とはアートのようなもので偶然なもの」と捉えることが大切であるというお話しがありました。

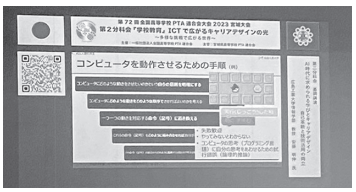
須江監督らしく、一流の選手になれなかったからこそ、いかに言葉で伝えるか、いろいろな経験や知識を自分なりに吸収して、子供たちに響く言葉やその効果を考え抜く素晴らしい指導者としての姿を示してくれた圧倒された講演でした。

分科会の報告

韮崎工業ＰＴＡ副会長　橋本明美

第七十二回全国高Ｐ連大会は、『豊かな杜につむぐ虹の光』～しなやかな強さで生き抜く力をテーマに未曾有の震災を乗り越えた宮城県で開催された。

私が参加した第二文科会では『ＩＣＴで広がるキャリアデザインの光～多様な挑戦で広がる世界～』をテーマに広島工業大学情報学部情報コミュニケーション学科教授で宮城教育大学名誉教授である安藤明伸博士の講演でした。内容が少し分かり難かったので箇条書きにて感想を書かせて頂きました。



一、「親世代は、今は歴史的な大きい転換点であることを認識する」

インスタ、サブスク、ユーチューブと、必要な情報は課金すれば簡単に自由に入手できるデジタル子ども世代。

過去の価値観に縛られた教育、子育て、進路・キャリア教育を受けてきたアナログ親世代は、これからの世界で認識するのは自己改新の必要性であり、過去の事を比較級で語ることのできる貴重な世代である。

二、今、学校のキャリア教育の現場では、強制・制限・比較をしないで、生徒の意思を尊重しながら自ら意思決定を行い選択している。

「何をやりたいか？」からどうやって展開させ解決するかを、ＩＣＴを活用し、外の世界（海外）と繋げる。

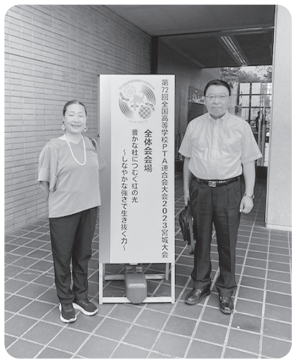
ＳＮＳの情報をＩＰＡＤを使い、保存・蓄積し、いつでもまとめて深めることができる授業を行っている。

三、キャリアの語源は諸説あるが「わだち」という意味もある。

子供達が自分の力で「わだち」を作り、他の「わだち」と交わり、未知の状況でも対応できる思考力と生きていく力が求められている。

最後に「キャリアデザイン」を知ることを目的とした若者向けウエブサイト”ＷＩＬＬキャリッジ“をお勧めされました。

将来について家族や友達と一緒に楽しめるゲーム感覚の自分発見ゲームですが、自分自身の特性や強みを皆で共有できるのも今の時代なのだと思いました。



「ウェルビーイング」の向上を目指して

山梨県高等学校長協会会長
小林　智

ＰＴＡの皆様には日頃より各学校の教育活動に対し、ご理解、ご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

五月八日、人々の価値観、学校の教育活動やＰＴＡの活動等を大きく変えた新型コロナウイルス感染症は感染法上の位置付けが「５類感染症」となりました。とは言え、未だに、以前のような状況は戻らず、ポストコロナ社会は未だ不安定な状況です。

しかし、そのような厳しい状況の中でも、子どもたちは自分の可能性を信じ、不安な気持ちと戦い、先の見えない困難さと向き合い、努力しながら乗り越えてきました。

そして、その支えとなっているのが、いつも声援しながらそばにいる、子どもの伴走者である保護者の皆様です。私ども教職員にとりましても、協働して子どものために力を注ぐことのできる伴走者として心強い仲間でもあります。

ＰＴＡの創始者であるバーニーさんは、生まれて間もないわが子の尊い生命を守り、健やかに育て、望ましい環境に迎え入れようと「母の会」をつくることを決心しました。やがて、彼女の訴えは多くの共感を呼び、運動の輪が広がりました。一八九七年、彼女が中心となり全米母親大会が開かれ、「全国母親協議会」を発足させました。

その後、一九二四年には「父母と教師の全国協議会」が結成され、これが現在のＰＴＡの母体となったのです。

日本のＰＴＡ誕生の契機は一九四六年、日本の教育の民主的改革を進めるために来日した米国教育使節団でした。

文部省はＰＴＡの設立を奨励し、一九五〇年四月までには全国の小・中・高の約九十八％の学校にＰＴＡが生れ、現在に至っています。ＰＴＡの根幹には子ども達の生命を守り、一人ひとりが健やかに育ち、望ましい環境で成長し、子どもたちが将来幸福になるための支援をするという心があります。

中央教育審議会が三月に答申した、本年度から五年間の国の教育の方向性を示す「教育振興基本計画」のコンセプトの一つに、「ウェルビーイング」（身体的、精神的、社会的によい状態、生きがいや人生の意義など、将来にわたる持続的な幸福を含む概念）を掲げ、個人が幸せや生きがいを感じ、豊かさを感じられる社会を構築するための教育を進めようとしています。

ＰＴＡは保護者と教職員が、子ども達とともに「ウェルビーイング」を向上させるために存在し、予測不能な今の時代にとっては重要な役割を担う共同体です。

ポストコロナにおいて、皆様には学校、家庭、地域が協働して、未来の日本社会を担う子どもたちの育成を力強く進めていくことができますよう、今まで以上にＰＴＡ活動にお力添えいただきたくお願い申し上げます。

第2回 高Ｐ連活動事例発表会を開催!!

去る十月二十九日(日)、高Ｐ連主催の『第2回高Ｐ連活動事例発表会』が県立甲府南高校を会場に開催されました。

昨年度（令和四年度）から始めた企画ですが、今年は昨年度を上回る六十二名の参加者を得て、実施することができました。

開会行事の後、第一部の〔事例発表〕では、次の二校による発表がありました。

㈠ 農林高校
発表者：河野亮　ＰＴＡ会長
テーマ：
『生徒の夢実現に向けたＰＴＡと学校との協働体制』

※ この発表は、七月に栃木県で開催された第六九回関東地区高等学校ＰＴＡ連合会大会（栃木大会）で発表されたものと同じです。

㈡ 白根高校
発表者：吉澤茂樹　ＰＴＡ会長
テーマ：
『白根高校のＰＴＡ活動ほか』

※ 保護者による塗装作業や学園祭のときに実施する「オヤジ焼きそば」などの活動紹介に続いて、単Ｐの運営について、ＰＴＡ会長の人選や会長の心構えなど、吉澤会長の経験を踏まえたお話がありました。

続く、第二部の〔意見交換〕では、全員が九つのグループに分かれて、活発な意見交換がなされました。

発表会終了後のアンケートでは、殆どの参加者がこの企画を肯定的に捉えていて、

・他校の取組の様子を聞くことができて参考になった。
・この企画を今後も継続してほしい。

などの意見が多数寄せられました。

終了予定時刻を超えて意見交換を続けたグループも多数あり、ＰＴＡの皆様の子供たちの教育に対する熱い思いが、各所に散見された企画になりました。

意見交換会の様子

※高等学校安全互助会

【給付対象の災害】

○ 学校の管理下において生徒が受けた災害で、独立行政法人日本スポーツ振興センターから災害共済給付金を受けた災害。

① **死亡共済金**
最大３００万円

② **後遺障害共済金**
障害の等級ごとに
10万円～３００万円

③ **医療共済金**
同一の災害について、振興センターからの医療費給付額が３万円以上のものについて、その10分の１を給付。

④ **歯牙欠損共済金**

⑤ **特別死亡共済金**　最大１５０万円

⑥ **特別給付金**（香料）　５万円

【問い合わせ先】

一般財団法人
山梨県高等学校安全互助会
TEL ０５５-２２６-７２９０

第18回広報紙コンクール

令和五年度県高Ｐ連主催の広報紙コンクールの結果です。
（参加11校）

◇最優秀賞
県立甲府支援学校

◇優秀賞
県立富士河口湖高等学校

◇奨励賞
県立あけぼの支援学校